



# 台湾経済視察記

財団法人福島経済研究所 近藤 哲  
理事長

## (はじめに)

福島と台湾の活発な交流を目的として「ふくしま台湾友好協会」が2009年9月に設立されたことを受け、福島と台湾のさらなる交流の活発化、福島空港の利用促進を図るため、『「民報の翼」福島経済視察団』を組織して台湾経済の実情と日本そして福島との貿易、投資、観光を通じた経済交流の可能性を視察する目的で台湾を訪れました。視察を通じて得られた台湾の現状や経済交流の内容、台湾各地の様子などをご紹介します。

### 1. 旅程概要

- ・日 程 2009年10月20日(火)～10月24日(土)
- ・福島空港から中華航空チャーター便で高雄へ、その後、台南、台中を經由して台北に移動し、経済視察を行っております。  
(「民報の翼」は「福島県おかあさん合唱連盟」の会員含め総勢150名で、チャーター便は満席の状態でした。)

### 2. 経済視察団の構成

- ・財団法人福島経済研究所、福島経済同友会、福島県、(株)福島民報社、東北電力(株)、(株)ダイユーエイト、(株)ユアテック、東日本興業(株)、福島商工会議所、福島学院大学、千駒酒造(株)、(株)東邦銀行の役員で総勢17名。

### 3. 台湾と福島との交流活動経緯

福島と台湾の交流活動の経緯は次のようになっています。

- ・2007年4月、台湾工商連合会の26名の方々に福島県の視察にお越しいただき、その際に、福島商工会議所、福島経済同友会、福島経営者協会の経済3団体で歓迎レセプションを開催し、経済交流を行っております。
- ・2008年12月には、台湾交通部観光局の頼局長を初め多くの方にお越しいただき、(財)福島県観光物産交流協会と(財)台湾観光協会との間で「台湾・福島観光友好協定」を締結。交流が活発になって参りました。
- ・また、2009年9月には、この交流を更に強い絆とすべく、福島市の経済団体が主体となり「ふくしま台湾友好協会」を設立し、台湾からは、台湾交通部観光局の頼局長、(財)台湾観光協会の周会長初め多くの方々にも福島にお越しいただき「台湾観光の夕べ in 福島」を盛大に開催し交流を深めております。

## I. 経済視察訪問先

### 1. 中華民国対外貿易発展協会

経済視察団は、中華民国対外貿易発展協会(TAITRA)を公式訪問しました。

台湾貿易センター(前記の略称)は、1970年に台湾の対外貿易促進を目的に台湾政府と業界団体の支援によって設立された非営利の団体です。

本部は台北にあり、600余名のスタッフが、国内4事務所と東京を含む海外53カ所の事務所をネットワーク化し内外企業の橋渡し役を担っています。

#### 「台湾貿易センターの業務内容」

- (1) 企業の国際調達のコンサルタントサービス  
台湾・中国大陸との取引の最適なパートナー紹介、商談手配、企業や工場訪問のアレ

- ンジ
- (2) 事業発展のサポート  
台湾への投資協力
  - (3) HiRecruit 海外人材登録サービス  
ハイテク人材専用の求人情報ポータルサイト  
「HiRecruit」
  - (4) 産業団体訪日のアレンジ及び国際見本市への出展
  - (5) 中国語版購買専用サイトの認知・利用促進
  - (6) 台湾最大の貿易情報発信サイト (Taiwan-trade) の認知・利用促進
  - (7) 日本に進出する台湾企業のトータルサポート
  - (8) 農産品満載の宝島・台湾  
台湾農産品の販売拠点の設置  
台湾セレクト農産品の店舗経営者の募集と支援
  - (9) 台北国際見本市への参加・来場の促進及び PR 活動
  - (10) 商務観光への参加促進及び PR 活動

台湾貿易センターでは DVD の映写設備の整った映画館のようなプレゼンテーションルームで、DVD による台湾紹介がありました。

その後、呉政典副所長より台湾の概況、貿易の現状等について説明を受け、質疑応答を行いました。

台湾の概況と競争力は次のとおりです。

日本と台湾の現状と「ヒト」の動きについて、2008年台湾貿易センターによると、台湾を訪問した外国人は約372万人で、そのうち約109万人(29.2%)が日本人となり国別第1位でした。台湾在住の外国人ホワイトカラーの半分は日本人ともいわれています。反対に日本を訪問した外国人は約835万人で、そのうち約139万人(16.7%)が台湾人となり国別第2位でした。

「モノ」の動きを貿易総額で見ると、日本にとって台湾は米国、中国、韓国に続く4番目の貿易相手となっています。一方、台湾にとって、日本は中国に続く2番目の貿易相手(輸入先と

しては1位、輸出先として4位)となっています。

「台湾への投資」のメリットについては、台湾は日本ブランドや大衆文化に対する関心が諸外国に比べて高いので、流通・サービス業にとって魅力的な進出対象となっています。

すでに百貨店や外食店、宅急便、食品、飲料など多くの日系商品やサービスが台湾では好評を得ています。新しく中国大陸市場に参入する際、消費者の嗜好が似ている台湾をテスト市場にするテストマーケティング拠点として活用でき、また台湾企業の国内工場はもとより、中国大陸や東南アジアの工場をフル活用し、フレキシブルかつ生産効率の高い、安価な材料・部品及び製品の国際調達を可能とする国際調達拠点にもなり得ると考えられます。

労働コスト面で競争力は決して高くありませんが、一方で台湾は教育水準が高く、他のアジア諸国と比べてその点で優位性があります。また、古くから日系企業が進出しており、日本語の堪能な人材が多く、その仕事のやり方に慣れているため、付加価値の高い企業活動が行えるとのことでした。

<各都市賃金比較> (上段は、台北を100とした指数)

	台北	横浜	上海	大連	バンコク
一般ワーカー (月額 US\$)	100 1,078	241 2,602	15 163	10 113	17 184
技術者 (月額 US\$)	100 2,060	210 4,318	21 435	10 198	16 327
部課長級 (月額 US\$)	100 2,462	228 5,616	44 1,071	20 480	32 790

(資料：2008年台湾貿易センター)

経済・政治環境については、経済は計画性を持った自由経済で、公正な自由競争のもとに企業が発展する余地が整っています。政治に関しては、台中関係での緊張が続いているが、内政面では民意を尊重した開かれた総統選挙が実現しています。生活・治安面は、距離的に日本と近く、歴史的・文化的つながりが深いこともあって、日本食、日本のタレント、流行歌などが好まれ、テレビ

面積	36,188km <sup>2</sup> (世界137位)	人口	2,290万人 (世界47位)
国内総生産	4,017億米ドル (世界21位)	一人当たり GNP	18,020米ドル
経済成長率	1.87%	外貨準備高	3,322億米ドル (世界4位)
輸出金額	2,557億米ドル	輸入金額	2,408億米ドル
対日輸出金額	175億6,000万米ドル	対日輸入金額	465億2,000万米ドル

(資料：2008年台湾貿易センター)

でも日本語の番組が多く放送され、また治安は良好であり、教育や医療施設も整っているので駐在員などの派遣に関する不安も小さくて済むと考えています。現在、台湾はハイテク分野のR&D拠点やIPOとしての地位向上、国際的な経営ノウハウの吸収、省力化システム、高度な知識・技術を備えた人材の育成などを重視しています。台湾産業の高度化に貢献できる企業が台湾に進出する場合は、特に多様な優遇措置を設けているとのことでした。

これらを受けて活発な質疑応答があり、台湾としても中国との経済関係を重視しており、自らの強みと立ち位置をよく認識して経済交流を進めようとしている意欲が窺えました。

## 2. 外交部亞東關係協會

次に、外交部亞東關係協會を訪問しました。

当協会は中華民国（台湾）の対日窓口機関であり、日本との間に国交がないため、形式的には非政府機関ですが、実質的には中華民国外交部（Ministry of Foreign Affairs Republic of China (Taiwan)）の所管です。

会談の中で陳調和秘書長は最近日本からの訪問が活発になってきており、ごく最近では鹿児島、新潟、鳥取県が、台湾に対して積極的に観光誘致や経済交流を行っていることや福島も訪れ、猪苗代湖、磐梯山、会津鶴ヶ城、喜多方ラーメンなどが特に印象に残っているとのことでした。また台湾人旅行者の旅行スケジュールからすると、東京、北海道、京都などが人気が高い。福島、東北を訪れるとすれば、タイトな日程のなかで観光地、名所を絞って旅行スケジュールに組み入れたほうがよい。相互交流を深めていくためには、チャーター便の活用は有効であるとのコメント

がありました。

会談を終えた感想としては、福島県も活発に交流を行っていますが、他の県も観光誘致、農産物の売り込みを行っており、台湾を大きな市場ととらえてPRをしているようです。そうした他の県を凌駕するためには、「安全・安心な食（果物・日本酒・米・そば・郷土料理など）」、「豊かな自然」、「紅葉」、「雪」、「温泉」、「歴史」など本県が有している「良さ」を「的」を絞って自信を持ってアピールすることと、チャーター便を使って、Two Wayの相互交流を更に活発に行い、とにかく一回は福島を訪問していただき、福島県の良さを売り込みリピーター化を目指すことが特に大切であり、リピーター化のためには、高校生の修学旅行の相互交流も効果があるのではないかと感じました。

## 3. 太平洋 SOGO

さらに「太平洋 SOGO」を訪問し同社の樹山氏（日本人）から、個人消費実態の説明を受けました。台湾の百貨店全体の売上の70%をSOGOと三越で占めていることや日本の農産物や食料品は良いものであれば高くても売れるし購買力のある富裕層もいるとのことでした。なお、10月28日から11月3日までの期間で福島県物産展が開催され、福島のPRを行うとのことでした。

その後、時間の関係と福島との物産交流の見地から、地下の食料品売り場だけを足早に見学しましたが、野菜、果物などは、日本産と台湾産では10倍近い価格差があるものもありました。また、北海道物産の常設販売コーナーがあり、台湾人の北海道好きが窺えたり、売場構成や品揃えは、日本にいるのかと錯覚するほど日本の百貨店や大規模なスーパーの食料品売り場と変わりません



中華民国對外貿易發展協會



外交部亞東關係協會



し、日本の有名な和菓子の老舗も店舗を構えていました。

## Ⅱ. 交流レセプションの開催

10月23日午後6時から、福島経済視察団主催の交流レセプションを開催いたしました。

主催者側の挨拶に続き、台湾観光局の劉喜臨主任秘書が歓迎の挨拶を頼局長に代わり行いました。

次に、福島県商工労働部商工総務課長の佐藤守孝氏より福島県知事メッセージが代読され劉喜臨主任秘書に当メッセージが手渡されました。

「ふくしま台湾友好協会」の花田勲副会長より、9月に福島で開催された「台湾観光の夕べ in 福島」の開催御礼と友好協会設立に関する協力に対し感謝状と記念品を劉喜臨主任秘書に贈呈いたしました。

アトラクションとして、福島県おかあさん合唱連盟の合唱披露や台湾の若者による胡弓などの演奏がなされ、和やかに且つ盛大に行われました。最後に、全員で「ふるさと」を合唱し、経済視察団の佐久間洋副団長（東北電力(株)上席執行役員福島支店長）が、中締めをし、交流レセプションを閉会いたしました。

## Ⅲ. 視察後雑感

今回の経済視察において、台湾と中国本土の経済・観光交流のウエイトが高くなってきており、台湾としては中国本土との関連を通じて台湾の置かれている立場を踏まえてその強みを生かした貿易などの交流を発展させて行こうとする意欲が窺えました。

最近では、日本企業と台湾企業と間での投資や資本提携などが大きく報道されるなど、その関係も幅広くなってきており、アジア圏経済そして世界経済におけるパートナーとしての関係度合いも高くなって来るとの感を持ちました。

なお今回の視察を通して見た台湾の感想についても触れてみたいと思います。

台湾の移動は南の端高雄から北の台北までバスで移動しましたが、高速道路が整備され、社会インフラは整備されている印象を持ちました。

高速道路そして街中を走っている車の大半は日本のメーカーの車ですし、大きな都市には、日本の大手コンビニの二つが街のあちこちに店舗を構え、店内のレイアウトや品ぞろえも日本と同じであることや、学習塾の看板も目立ち日本の宅急便もあるなど日本と同じようなところがあります。

台湾では街中に小さな食べ物屋が数多くあり、夜市と呼ばれる飲食の屋台もあちこちに毎夜出ており、共稼ぎも多いことから、朝食・夕食とも毎日外食が当たり前というところは日本との違いを感じました。

また、台湾の街は治安も良く、親日的であり、主なレストランでは従業員も日本語を学び片言ながら日本語も通じることなど親和性もあって日本人には旅行しやすい国との印象を持ちました。また今回同行した、「福島県お母さん合唱団」の方々も美しい歌声で福島と台湾の交流に大きな役割を果たしており、こうした草の根的な交流の大切さも実感しました。

台湾と福島はお互いに交流に対する期待も大きく、経済交流、観光交流の輪をこれからもますます大きく、たくそして輝かせて行くことの必要性を強く感じて経済視察を終えました。



太平洋 SOGO



福島経済視察団主催交流レセプション（於 圓山大飯店）